

切除不能肝細胞癌に対する非切除療法後の肝切除症例の検討に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年12月5日～2020年12月31日

〔研究課題〕

肝細胞癌非切除療法後再発に対する salvage surgery の有用性の検討

〔研究目的〕

非切除局所療法を施行し、再発を認めた肝細胞癌に対して肝切除を行った症例の予後や合併症を調査することです

〔研究意義〕

肝細胞癌は悪性腫瘍のなかで5番目に多い疾患です。治療の第一選択は完全切除ですが、肝細胞癌と診断された時にはすでに進行しており切除不能な場合が少なくなく、切除不能な肝細胞癌に対してはラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法、放射線療法などの非切除局所療法を中心に行います。しかしながらその後再発をきたした際の治療法としては salvage surgery と呼ばれる手術になりますが、その手術の是非は明確ではありません。本研究により salvage surgery を行なった症例の短期および長期予後を明らかにすることを目的とします。

〔対象・研究方法〕

2010年4月から2018年12月までに帝京大学医学部附属病院外科学講座で肝切除が施行された症例で、切除までに非切除局所治療(ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法、放射線療法など)を2年以上施行された症例を対象とします。症例背景(血液検査や術前CT所見など)、非切除療法の種類、切除までの期間、術後合併症、予後などの項目を検討し、生存期間・無再発生存期間を解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院外科

〔個人情報の取り扱い〕

本研究で患者様のデータを取り扱う際は、個人情報保護に十分配慮します。研究の成果を公表する場合は、患者様を特定できる情報を含まないようにし、本研究の以外の目的で患者様のデータを使用することはありません。

〔その他〕 (健康保険・謝金等について、必要に応じて記載する。)

本研究は後ろ向きの観察研究であり、患者様に費用負担および健康被害は生じません。

対象となる患者様またはご家族の方で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部外科学講座 臨床助手 津嘉山博行

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [モバイル 7218]